

## 第1回 学校運営協議会 議事録

実施日	令和7年6月11日(水)
場 所	全体会 大曲工業高等学校大会議室
	分科会 地域教育部会
	大会議室
	学校教育部会
	図書室
	キャリア教育部会
	土木コース製図室

### 全体会Ⅰ

- 1 校長挨拶
- 2 出席者紹介・委員委嘱(辞令交付)
- 3 委員長、副委員長の選出
- 4 委員長挨拶
- 5 協議
  - (1) 学校運営方針の説明、承認
  - (2) 年間計画の説明

### 分科会(各部会に分かれての話し合い)

地域教育部会「本校が取り組んでいる地域連携事業について」  
学校教育部会「本校の教育活動について」  
キャリア教育部会「進路希望の実現について」

### 全体会Ⅱ

- 1 各分科会からの報告
- 2 副委員長挨拶
- 3 諸連絡

# 全体会 I 記録

会 場 大会議室

参加者 委員 12名

三浦 尚、松塚 智宏、村上美智夫、山崎 精輝、齊藤 司、小松 満、  
遠田 博士、成田 聖、新田 雅昭、高野 敏浩、菅原沙央梨、柴田 修（校長）  
敬称略

校内委員 12名

堀井 和弥、福田 則彦、菊地 克信、鎌田 正樹、由利 幸、田口 忠廣、  
柴田 淳司、阿部 亮介、高橋留美子、小林 国元、野上 浩、佐々木純悦  
※欠席者 高橋 佳照（防災担当）代理：菊地 克信（総務）  
大友 仁（進路指導主事）代理：阿部亮介（進路指導副主事）

## 1 校長挨拶

秋田県のコミュニティースクール実施校は現在5校（矢島高、六郷高、大曲工、西仙北高、羽後高）で、中でも本校は早い時期から始めている。

学校運営協議会は、「社会に開かれた教育課程の実現に向けて地域と学校が組織的、継続的に連携協働していくことが重要」とされている。あらためて大曲工業高校の現状を知ることと話し合っただけで欲しい。どんな課題があるか情報共有して頂きたい。これを基に「こんな生徒に育って欲しい」、「こんな学校を創りたい」、「地域が学校に出来ること」、「学校が地域に出来ること」などについてお互いが学んで熟慮し、議論（熟議）することが根幹となる。それらを実践し振り返り次年度へつなげていき、今後、委員が替わっていても、持続可能な取り組みが継続していくことが大切であると考えている。本日はよろしくお願ひします。

## 2 出席者紹介・委員委嘱（辞令交付）

自己紹介（名簿順）

## 3 委員長、副委員長の選出

校内委員会で検討し、委員長に三浦様、副委員長に松塚様を推薦。  
全会一致で了承を得た。

## 4 委員長あいさつ（三浦 尚 委員長）

不慣れな面もあるがよろしくお願ひしたい。

## 5 協議

### (1) 学校運営方針の説明、承認（校長）

#### ①校訓について、教育目標等（資料P-5）

昨年度までは、「正 忍 創」の意味や英訳などが記されていたが、これらを省きシンプルな表現に戻した。意味などは都度、先生方が生徒へ言葉で伝えるものであると考える。また、生徒それぞれが考えても良いと考える。「1 教育目標」は、創立以来変わらず、これを達成すべく「2 教育方針」、「3 今年度の重点努力目標」としている。重点努力目標は昨年度と同じだが表現を解りやすくした。最後に「4 カリキュラム・マネジメント」をあげた。これら教育活動に基づいて生徒が実際に行う教育活動や経験によって実践を図りたいと考えている。

#### ②中期ビジョンについて（資料P-6、7）

学校運営方針に関係するものとして、令和3年度に本校で作成した中期ビジョン（5カ年計画）があり、今年度が計画の最終年度となる。このビジョンは「スクールポリシー（学校が目指すこと）」、「グラディエーション・ポリシー（目指す生徒像）」、「カリキュラムポリシー（本校の学び）」、「アドミッションポリシー（求める生徒像）」とされ、これを実現すべく

5年間を通しての「目標達成のための具体的な方法と取組」があげられている。これらから感じたことは、中期ビジョンは秋田県の教育の目指す姿を示している「ふるさとを愛し社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」であるということである。

また、来年度からは新中期ビジョンが始まる。現在ある「スクールポリシー」に加え「スクールミッション」の策定が必要になる。これをデザイン化して解りやすくし教職員、生徒、保護者、学校運営協議会、地域らと共有することが県教委から求められている。

これらの学校経営に関して効果的な実践に向けて考えるのは、「先生方が働きやすい環境の中で長く勤めたい」、「生徒は学校に来たい」、「保護者は学校に通わせて良かった」、「地域の方からは良い学校だ」と思われるような学校を目指したい。年度当初の会議でも先生方に伝えたが、「そもそも先生方が幸せでなければ生徒を幸せに出来ない」と考えている。

私が今考えている課題としては、カリキュラム・マネジメントが2年目で、検討を加えながら変更を進め、先生方の考え方や思いを大切にし知恵や意見を出し合ってもらい、先生、生徒、保護者へわかりやすい言葉を使ったカリキュラム・マネジメントを展開していきたい。

全会一致で了承を得た。

## (2) 年間計画の説明（教頭）

本日は、この後、各分科会に分かれ今年度の取組などについて話し合ってもらう。

昨年度までは4部会の構成であったが、今年度は3部会で進めていき、分科会後は、再度全体会にて発表してもらう予定。

今後の日程は第2回は11月12日（水）を予定しており、ここでは上半期の振り返りと下半期の取り組みについて協議を頂くことになる。第3回の運営協議会を令和8年2月5日（木）の予定で学校評価アンケートや年度の反省、次年度の取り組みなどについて協議をする予定になっている。また、今年度は学校行事の様子を掲載した「コミュニティー通信」を発行しお届けする予定です。

## 分科会記録（地域教育部会）全体会Ⅱで報告

会 場 大会議室

参加者 三浦 尚（委員）、山崎 精輝（委員）、小松 満（委員）、成田 聖（委員）  
小林 国元（機械科主任）進行  
野上 浩（電気科主任）、佐々木純悦（土木建築科主任）  
菊地 克信（総務部）記録

協 議 「本校が取り組んでいる地域連携事業について」

小林

資料「令和7年度 地域連携事業」を確認していただき、ご意見、質問など有りましたらよろしく申し上げます。

<資料の訂正>

佐々木

・「県工業系生徒による課題研究発表会」の開催場所「横手清陵学院」は「大館桂桜高」となる。

成田委員

・「避難所開設」の実施日「検討中」は「10月27日」に決定した。

三浦委員

・インターンシップを毎年実施しているが、学校側からの手順書や要望が無い中で受け入れ、会社主導で計画し実施している。例えば、作業体験を計画する時に学校で使用している機材と会社で使用している機材の新旧について情報が無いため現場との違いが解らない。学校側に合わせるか？、最先端を使用すべきか？などに迷いが生じる。最先端に触れさせたい気持ちもあるので、

ぜひ学校からの情報を頂きたい。また、情報があれば、場合によって同窓会より機材の寄付などを検討することも出来る。(高価ではない物で)

成田委員

・各科で研修、見学を行っているが、各科のバランスやボリュームはどうなのか教えて欲しい。工作上、小学校、中学校で話をする機会があるが、「即戦力の人材を育てる工業高校」として時間の配分(使い方)などはどうなのか。

佐々木

・土木・建築科は、普通教科には影響が出ないように課題研究や実習の時間内で計画し実施している。

野上

・電気科は、例として「大曲仙北電気工事協働組合交流会」の事業があるが、これは工業技術基礎の授業内で実施している。

山崎委員

・学校を出て現場を見ることは良いことである。GPSを使用し、無人建機で工事をする様などは、なかなか見られる物ではない。

佐々木

・学校の予算的なこともあるので、外部団体の企画にお世話になっている一面もある。

三浦委員

・業界的には、学校からの要望があった方が計画しやすく動きやすい面もあると思う。

山崎委員

・生徒アンケートを取ってはどうか?。どんな現場、どんな仕事を見たいかなど。ダム工事現場などへは、土木・建築科以外も見学させてはどうか。

野上

・電気は基本「目に見えない」ものが対象なので、知識と一致して見学できるかなど、難しい面もある。

小林

・機械科でいえば、ブルドーザ、フォークリフトなどの機械、コマツやトヨタなどの会社に関連し興味を持てる。しかし、実習とのバランスを考えると、実習時間を割り当てるには限界がある。

三浦委員

・今年度、当社に電気の新入社員が入りありがたく思っている。バイオマス事業を進めており来年に稼働する予定。しかしながら、保安業務か電気工事かの希望を取っても意思表示がないので少し困っている。

・ジュニアマイスター資格に対する補助金があったが、今は、どのような状況なのか教えて欲しい。創立50周年の時、資格取得に使える予算500万円(年50万)であった。

小林

・現在は、申請料は学校で出している。

三浦委員

・同窓会は毎年、卒業生からの会費や寄付で成り立っている。昨年度は野球部にバットを寄付した。資格取得には経費が掛かるだろうし、それ以外でも要望などがあればできる限り対応していきたい。

佐々木

・ものづくりコンテストなどの練習材料費としてバックアップして頂ければありがたい。

山崎委員

・交通費の負担が大きい場合もあるので援助が出来れば良いと思う。

小林

・技能検定のなどは検定料が1万円ぐらいと負担が大きいので援助して頂ければありがたい。

三浦委員

・大工花火はどうか。

野上

・貸して頂いた装置で操作を教えてください、花火の材料費は学校で負担している。

佐々木

・大工花火の取り組みは、純粋な工業高校として、地域と連携した有意義な活動である。

小松委員

・「仙北中との連携事業」の実施日はいつごろ決まるか教えて欲しい。中学校側では11月11日、11月20日を想定に入れている。

小林

・今年度は機械科が担当する。実施日は同日実施の大曲農との絡みがあるので今後の打合せで決まる。親子ものづくりは小・中学校とのふれあいのため続けながら充実させていきたい。

三浦委員

・毎年、課題研究発表を見させてもらっているが、発表会の製作物はどうしているか教えて欲しい。

小林

・機械科は、展示場所がないので担当者が保管している。

野上

・電気科は、今年度の見本として使用している。

三浦委員

・眠らせているとすれば勿体ないので、何かの機会に展示できればと思う。

山崎委員

・ここは、大雨が降ると浸水する場所ですね。

成田委員

・結論から言うと、最大浸水で1階はアウトです。指定避難所となっているが2階以上からとなっている。

三浦委員、山崎委員

・以前に学校周辺が水に浸かったが、グラウンドは水没したものの校舎玄関までは浸からなかったような気がします。

小林

・これまで、様々な質問を出して頂きながら意見交換が出来ましたので、今年度事業案を基に計画を進めていきます。

## 分科会記録（学校教育部会）全体会Ⅱで報告

会 場 図書室

参加者 村上美智夫（委員）、遠田 博士（委員）、高野 敏浩（委員）、柴田 修（委員：校長）  
鎌田 正樹（教務主任）進行  
由利 幸（生徒指導主事）、高橋留美子（保健主事）  
柴田 淳（特別活動部生徒会担当）記録

校長

・協議内容について、部活動も教育活動なので、運動部・文化部、工業、普通教科も含む。範囲は広くなってもよい。一つか二つピックアップして、それを考えていきましょうと。要望とか、こうしたらとか。

遠田委員

・なにかを学んでほしいということはない。あいさつ、コミュニケーション、勉強の仕方を鍛えてほしい。加えて、保護者の教育をしてほしい。例えば、大学に行く勉強をしてほしいとあったら、「予備校にってください」という。学校は勉強の仕方を教える場所なので、あとは自分でしてくださいと言うしかない。

・叱られ慣れた子供がほしい。叱られ慣れてない。少し注意しただけで、怒られたという。そうなくなってしまうと、こちら何も言えなくなってしまう。

高野委員

・ちょっとでも言えば会社に来なくなるという話もよく聞く。

#### 遠田委員

- ・保護者の要望をすべて、言うことを聞く必要もないかもしれない。うまくかわす方法も必要だと思う。
- ・PTAに参加しない保護者が多い。

#### 高野委員

- ・PTAに来ないという選択もあるが、興味がないのはさみしい。先生と話すことによって、求人票の時期の話など、就職の話がわかる。来ない保護者はわからない。就職しても想像と違うと言って離職する。心を病んで薬を飲んでいる人もいる。工業の卒業生でもやめている生徒は多い。怒られた、で辞めている。仕事を辞めることは悪いことではないが、地域の会社がどういうものなのか。体験の場を増やしてほしい。
- ・通年のアルバイトについて、アルバイトすることによって社会の勉強になる。

#### 由利

- ・許可しているが、学校生活ができている人に限定している。必要があれば許可するラインは下げている。

#### 遠田委員

- ・コミュニケーションが取れる人が少ない。有名な技術大学から来る生徒でも、コミュニケーションできない人は就職試験で落としているという話もよく聞く。最低限、人とコミュニケーションできないと企業も困る。

#### 高野委員

- ・サービス業のアルバイト。年齢が近い人とは付き合っていない中で、アルバイトに行けば人付き合いの勉強になる。地域の企業、体験を多くしてほしい。企業との付き合いなどを含めて、就職する人は地元の企業とのインターンシップなどが増えれば。そういった活動を通して、入った後に合わないといって辞めないようになれば。

#### 遠田委員

- ・転職は悪いと思っていない。県外に行く人は行けばいい。戻って来るための活動をしなければならぬ。学校だけではできない。保護者、親の協力が必要。首都圏は給料いいが、暮らしぶりは首都圏のほうが悪い。そういった内容を教える。首都圏から、秋田に戻ってきていいという生徒を育てる。秋田と仙台であれば給料はあまり変わらない。可処分所得を考えれば、実家から通えばお金が貯まる。大学は別だが。問題は入ってから昇給とかは、大きい企業のほうがいいかもしれない。

#### 村上委員

- ・学校に対する要望は昔も今もそうそう変わらない。様々な要求を出される。それに対して学校側が頑張る。学校側が無理になってきている。生徒のために、という姿勢でやっていかなければならないが、自分たちの首をしめていないか。先生が楽しく仕事できるような、授業だけでなく、部活行事などという視点で。これはやらなくてもいい、なくしてもいいという視点でやっていかなければならないのでは。秋田県で教員をやりたいという人が辞めていく。理由は、学校の先生が大変だからというものが一番多い。給料とかではない。自分流の働き方改革、工業流の働き方改革を。その結果、職員が楽しく過ごせるように。その結果、生徒たちも楽しく過ごせるように。その結果、保護者たちも安心していけるように。そのサイクルが最近うまくいっていない。先生が大変で、その影響が生徒に、という方向になるのではないかという心配がある。

#### 遠田委員

- ・昔の学校は楽しかった。生徒も職員も同じく。よく大変なこともできたなあと。先生が楽しそうだったから生徒も楽しく過ごせる。そういう時代を経験しているだけに、ちょっと先生方頑張りすぎでは？。アンケート。真面目な先生。100点を取りに来る。そういう先生は、緊張の糸が切れたらどうなるかわからない。いい塩梅に適當でいい。足りないところは家庭や自分でやればいい。学校に要望するのであれば、PTAへもっと参加しなければ。

#### 由利

- ・今の生徒は危機管理ができてない。小学校、中学校から危ないことを避けさせている。そういった経験がない生徒が多い。体験させてあげたい気持ちもあるが、ルールを守らせたい気持ちもある。

#### まとめ

- ・コミュニケーションが取れない生徒が多い。会社に入っても想像と違う、病んでしまう生徒も多

い。対応できる生徒を育てたい。育ててほしい。

・インターンシップへの参加だけでなく、アルバイトをはじめとした様々な体験を増やしていくのはどうか。

・PTAの参加も少ない。学校の教育内容もわからない中でアンケートを取ると、要望ばかり増えていく。そうすると教員が大変になっていく。生徒も大変になっていく。

・学校の内容がわかってないからPTAも少ないのでは。配信などを多くしていきたい。

○今後のテーマ

・コミュニケーションが取れて、粘り強く活動できる生徒を育てる。

## 分科会記録（キャリア教育部会）全体会Ⅱで報告

会 場 土木コース製図室

参加者 松塚 智宏（委員）、齋藤 司（委員）、新田 雅昭（委員）、菅原沙央梨（委員）  
阿部 亮介（進路指導部）進行  
堀井 和弥（教頭）、福田 則彦（総務主任）  
田口 忠廣（特別活動部主任）記録

協 議 「進路希望の実現について」進路希望の実現へ向けて

阿部

・進路（就職）に関する取り組みについて、資料P16をもとに、令和6年度進路内定状況を【就職先】県内外就職、公務員、【進学先】大学、専修・各種学校の順に説明する。

松塚委員

・進路希望の実現において、生徒は中学校から高校に進学する時に方向性を固めているのだろうか。生徒がどのような進路先があるか知る場面があるのか。キャリア教育とは就職先を探すことではないと思う。

新田委員

・進路希望調査の結果を見ると、2・3年生を見ると就職が約7割で進学約3割だが、1年生は就職約6割で進学が約4割になっている。

松塚委員

・インターンシップもマンネリ化して企業に任せっきりになり、見せるだけの研修で、本当に教育に繋がっているのか疑問である。

田口

・以前は3日間の研修を実施していたが、最近では企業の方からの要望で2日間の午前中で実施の企業もある。その後、同じ企業で夏休みのお盆期間に3日間アルバイトを実施し、給料を頂く厳しさを実感してきた生徒もいた。

齋藤委員

・専門校でも企業の温度差を感じている。

教頭

・大工はOB講話等も充実しており生徒の関心も高いと感じる。

福田

・進路ガイダンスも実施しており、コロナ前よりも良くなってきているが、企業等を訪問するための財源を確保するのが大変である。しかし、山崎先生（土建）は、同窓会や、建設業協会等を上手に活用し実施している。

松塚委員

・1年生限定ガイダンス、eキャリア教育（県で実施）3つの動画をインターネットで半年間見ることができる様な取り組みもある。県や市で自由財源が必要だ。

齋藤委員

・専門校では、地元定住を推進し優秀な生徒が高校で学んだ技術を生かせる企業就職に取り組んでいる。

阿部

・本校の地元定住についての取り組みとしては、1年生が県の事業でふるさと企業見学を実施している。地元定住をさせるためには、学年部や進路指導部で地元企業の魅力について早いうちに気付かせる働きかけが必要であると感じる。

松塚委員から新田委員に質問

・(松塚委員) 地元定住するために大仙市として財源を確保していただくことは可能なものか。地元の企業を知っていただきたいとは考えている。

・(新田委員) 現在、地元の中学生を対象とした企業見学は実施している。高校生への財源については即答はできないが、前向きに考えていきたい。企業が学校へ協力するなどの活動等。

菅原委員

・高校の進路については、進路だけで決めている生徒ばかりではないと思う。息子二人がお世話になったが、部活動を頑張りたく選択した。長男は卒業後に理学療法士を目指している。二男は、卒業後に救急救命士を目指したいと頑張っている。いずれも部活動で関わった機会がきっかけだった。

## 全体会Ⅱ記録

会 場 大会議室

### 1 各分科会からの報告

各分科会での話し合いの内容を記録者が報告(要点)

### 2 副委員長挨拶(松塚 智宏 副委員長)

地域のニーズ、学校の悩みを改めて確認することができ、これまでの学校運営協議会よりも具体的に踏み込んだ話し合いができたと感じている。

また、これまで地域が学校に頼っていたことが強かったように思う。地域とともにある学校づくりへ具体的に相談していくことに期待したいと思う。